

夏休みや春休み、ゴールデンウィーク等に、期間限定の特別企画展やミニ企画展を開催。昆虫やロボットなど人気のテーマのほか、旬の科学トピック、地域の魅力発信、体験性の高いものなど多様なテーマの企画展を開催し、来館者の人気を博してきた。

2012年からは科学館スタッフが中心となって企画展を制作し、常設展示と関連づけた内容や、地域の自然環境、産業にスポットを当てたテーマも取り上げてきた。企画展を通して圏域の企業や大学、地域団体とのつながりを深めるきっかけとなった。



1996年夏



1998年夏



2003年夏



2004年春



2013年春



2014年夏



2015年春



2015年秋



2006年冬



2008年夏



2010年春



2010年夏



2019年夏



2019年秋



2020年夏



2021年夏



開館20周年記念特別企画展
「夏だ!とびこめ!魚ワールド」
(2014年)

企業や大学の多くの協力を得て魚の剥製や釣り竿・疑似餌などを展示した



「感覚の迷宮」
～世界は錯覚でできている?!～
(2015年)

錯覚世界を五感で体験し、感覚と脳の関係を学ぶ企画展を開催した



「パズル島へようこそ!」
(2017年)

科学を記述する数学を、パズルを通して体験し、興味を持ってもらうきっかけを作った



「ぶんぶん文房具展」の連携企画
(2019年)

地域にまつわるワークショップを武蔵野美術大学(小平市)の学生が行うなど連携して開催した

歴代来場者数 トップ10

- | | | |
|-------|-------------------------------|-------------------|
| 1位～3位 | 大昆虫展 | 2016、2013、2019年 夏 |
| 4位 | パズル島へようこそ～解ける? 解けない? パズルの不思議～ | 2017年 夏 |
| 5位 | たまろくSTATION～駅からみえるまち・ひと・技術～ | 2018年 夏 |
| 6位 | 夏だ!とびこめ!魚ワールド | 2014年 夏 |
| 7位 | 感覚の迷宮～世界は錯覚でできている?!～ | 2015年 夏 |
| 8位 | ぶんぶん文房具展 | 2019年 春 |
| 9位 | トリックアート展2011 | 2011年 夏 |
| 10位 | ドキドキハラハラ科学のおばけ展 | 2003年 夏 |

教育普及活動

知識として得た科学は、実際にそのモノや現象を見たり、触れたり、試したりすることで、より理解が深まる。体験型の展示物からさらに一步踏み込んで、さまざまな観察・実験・工作の体験プログラムを展開し、自らの五感で科学を理解する機会を作ってきた。

また科学に興味のある人がさらに知識を深められる講演会やサイエンスカフェも、様々な分野の専門家を招いて行ってきた。



顕微鏡を使った観察教室を定期的に開催



金山緑地公園(清瀬市)での野鳥観察会



成分などを自分で工夫して、よく伸びるスライムを作り競う実験教室



大人に向けた講座や教室を実施



工作教室は、作品作りを通して、もののしくみや科学的な性質などに気づけるようにプログラムを設計している



学校での学びの支援

教育目的で利用する団体に向けた学習機会の提供や、学校での学びの支援も行っている。団体向けのプログラムでは学習指導要領をふまえ、学校では得難い体験機会を提供している。また、展示見学の際に活用できる学習シートも、ホームページからダウンロードして活用できるよう提供している。



学習投影

平日は小学校4年生、6年生、幼児に向けたプラネタリウム番組を実施している。圏域内の全小学校は、各校の校庭360度の風景から投影が始まる。太陽や月、星の動きを実感をもって学ぶことができ、科学館の学習支援事業の中でも重要で観覧希望も多い。



学習講座

学習投影を利用する圏域の学校や団体に向けた学習講座。空気の実験ショーやプログラミング、電気の実験、展示解説などをスタッフが行う。学校の授業では扱うのが難しいテーマや実験に取り組み、科学館ならではの体験を通して理解を促している。



出前授業

科学館内で行っているプログラムの一部を、圏域の小学校へ出向いて行っている。



標本の貸し出し

学校の授業が充実するよう「多摩川の川原の小石」標本や「関東ローム層」標本の貸し出し、観察用のプランクトンの提供を行っている。

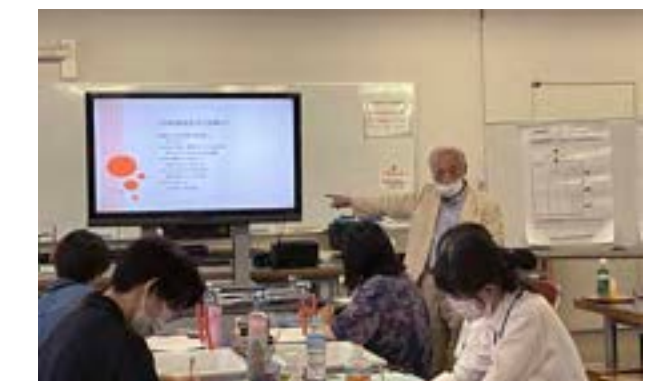
教員や大学生の学びの支援

2005年より地域の学校教員を対象とした教員セミナーを東京学芸大学と連携して開催してきた。他にも教員の理科学習の勉強会のサポートや、学芸員を目指す学生向けの実習、圏域中学生の職場体験の受け入れなど、科学教育や博物館についての学びの場としても機能している。



教員セミナー

理科を教えている小中学校の教員を対象とした、指導力向上と魅力ある授業づくりのための研修会を毎年開催



博物館実習・講義

来館者に向けた教育普及活動の実践など、科学館の実務を通して博物館の基礎的な機能について学ぶ

調査研究

体験型の展示物を中心とした科学館としてスタートしたが、開館して10年を迎えた頃から化石や昆虫などの標本展示や市民からの寄贈標本の受け入れに力を入れ、現在収蔵する地学・生物分野の標本資料は8,000点を超える。2020年には東京都教育委員会より「博物館相当施設」に指定された。

市民コレクションの活用 寄贈を受けた昆虫・鉱物・宝石・貝の標本は常設展示や企画展で展示している。



櫻井昆虫標本コレクション



舟木鉱物コレクション

調査活動 科学館近隣の生物相の調査や、市民による環境保全活動等への協力も行っている。



館庭の昆虫調査



図録
「47都道府県の石ハンドブック
多摩六都科学館コレクション」ほか



発行物
「地学News Letter(旧・化石
ニュースレター)」2005年より発行

協力者 地学・昆虫分野では、専門家のサポートにより自然史系資料を扱う博物館としての専門性を強化した。



故 猪郷久義 特別研究員
(筑波大学名誉教授)



猪郷久治 特別研究員
(東京学芸大学名誉教授)



須田研司 氏
(むさしの自然史研究会)

専門機関・専門家との連携・交流

研究機関と連携することで、多摩六都科学館はより専門的な最新の科学情報を発信する場となっている。科学の専門性を深めるだけでなく、考古学やアートなど、異分野の専門家ともコラボレートした、科学の枠を広げるイベントも開催している。



専門家による講演会や
レクチャーを開催
ICRR梶田隆章博士を招いての講演会



KEK物質構造科学研究所の
研究者を講師に招いた実験教室
「チョコレートサイエンス」



奈良文化財研究所の協力で、
プラネタリウム特別番組
「キトラ古墳が語るもの」を制作

協定締結機関

近隣の学校法人や国立の研究機関との協力協定により、科学館の専門性を強化するとともに、研究者と科学館の来館者をつなぐ活動を行っている。

研究機関名	締結年
大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台 (NAOJ)	2014年
大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構 (KEK)	2014年
東京大学宇宙線研究所 (ICRR)	2015年
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所 (NIPR)	2016年
東京大学大学院農学生命科学研究科 附属生態調和農学機構 (ISAS)	2017年
国立研究開発法人 情報通信研究機構 (NICT)	2017年
大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 (NINS)	2023年

学校・教育機関名	締結年
学校法人 武蔵野大学	2003年
国立大学法人 東京学芸大学	2005年
学校法人 自由学園	2014年

地域との連携

圏域5市を軸とした地域の企業や大学、市民団体と連携し、さまざまな展示制作や体験活動を展開してきた。自然環境や産業など地域資源の価値を伝える活動によって、そこで価値を創る・維持する取り組みをしている人々とのつながりが深まり、市民から頼られる「地域の科学館」へと成長した。

地域の企業や団体との取り組み



市民を講師に招いて、落合川、黒目川の生き物や環境を観察
(写真は東久留米市・2018年)



「農と食の体験塾 大豆編」
大学・市民・科学館で連携して大学の畑で取り組む農業体験講座



「つながるスポット」に時計がテーマの展示物を共同で制作
(シチズン時計株式会社)



海や川での初心者向け釣り教室を開催
(ダイワ〈グローブライド株式会社〉写真は2015年)

地域の公共施設と連携した取り組み



「たまろくとしかんブックセレクション」
圏域の図書館と科学館の共通テーマで選書、展示



土器の科学調査の体験教室で
下野谷遺跡(西東京市)について紹介(写真は2023年)

地域の交流拠点、魅力発信

多摩六都科学館は科学の教育施設であると共に、圏域5市の公共施設である。生涯学習の場として人々の交流拠点となり、地域の魅力を発信することを目標に掲げ、市民との協働事業や課題解決につながる取り組みを行ってきた。

市民感謝デー、特産市など

市民優待や圏域の魅力を発信するイベントを毎年開催。科学館と地域の魅力に触れる機会を創出している。



市民感謝デーのステージに圏域5市のキャラクターやご
当地ヒーローも登場した(写真は2016年)



ミュージアムショップで特産市を開催(写真は2022年)

だれもが楽しめる科学館(社会包摂の取り組み)

やさしい日本語によるプラネタリウム投影やガイドブックの作成、赤ちゃんと一緒に見られる「0歳からのプラネタリウム」など、より多様な人が科学館に親しみを持ち、利用しやすい環境づくりに取り組んでいる。



やさしい日本語で行うプラネタリウムやイベント



おもいやりプラネタリウム



0歳からのプラネタリウム



大人向けプラネタリウム

多摩北部広域子ども体験塾(多摩・島しょ広域連携活動助成金事業)

圏域5市と連携して、様々な地域の魅力に触れる大規模な感動体験を企画。圏域市の小中学生を対象に見学ツアーや観察会などを実施している。



「多摩六都地域こだわりのものづくりを学ぶ」
(2014年8月)
見学先の一つ、株式会社大林組技術研究所(清瀬市)では、振動体験
装置で免振・制震効果を体感した



「空飛ぶたまろく調査団」(2018年8月)
飛ぶしくみを学ぶため飛行機整備工場(大田区)を見学した

ボランティア会の活動

多摩六都科学館のボランティア会は2001年1月、1回目の展示室リニューアル後から活動を開始した。ボランティア会が常時活動できる場所「からだラボ」(活動開始時は「はっけんテーブル」)で、来館者と科学館をつなぐ役割を23年間担ってきた。科学を専門にしている人だけでなく、人とのコミュニケーションが好きな人、モノづくりを伝えたい人、自分の持っている知識や技術をベースに科学館で活かしたい人など動機はさまざま。まずは「自分が楽しむ」気持ちで、からだラボの他、科学教室や昔あそび、天文、雑木林管理など多岐にわたる活動を展開している。

27名でスタートしたボランティアは2023年12月時点で大人110名、ジュニアボランティア20名が登録している。ボランティアとの交流を楽しみに訪れる来館者も多く、役割は科学学習にとどまらない。

多摩六都科学館は、ボランティア会を最上位の利用者でありパートナーと位置づけ、ボランティア会主体での企画運営をサポートしている。



ボランティアメンバーは赤いベストが目印



からだラボでの活動



児童館にてカブラ®のアウトリーチ活動(東村山市)



有志が自作の実験装置などをテーブルに並べて紹介する「わーくわく科学広場」



科学講座の開催やぬり絵コーナーの運営、観察会の実施など、ボランティア会独自の企画を行っている

覚えていますか? 昔のロクト

1994年開館当時の展示室は、宇宙・生命・生活・地域・地球の5つのテーマで構成されていた。2001年と2013年の2回にわたる展示室リニューアルで惜しまれつつ終了した展示物の一部を振り返る。

日本の実験棟「きぼう」

2001～2012年

旧・宇宙の科学

国際宇宙ステーションの日本の宇宙実験施設「きぼう」の与圧部の一部を再現。「エアロック」の扉の開閉や、「ロボットアーム」の操作を体験できた。



食べ物の旅

1994～2000年

旧・生命の科学

来館者が食べ物になったつもりで、口から入り、食道・胃・小腸・大腸を通して出ていくまでを体験する拡大模型。粘膜の形状を観察したり、体内音を聞くこともできた。



センサーロボット「ロッキー」

2001～2012年

旧・生活の科学

話しかけると返事をしたり、ボールの色を識別したり、握手すると目で感情を示すなど、音声認識、色、触覚の3つを備えたセンサーロボット。



マイクロキッズ

2001～2012年

旧・地域の科学

子ども達が100分の1の大きさになってアリ塚に登ったり、滑ったり、くぐったりして遊ぶ展示。

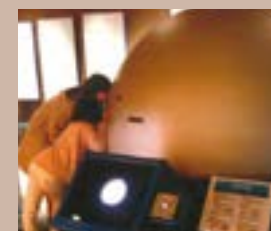


三球儀

1994～2000年

旧・地球の科学

三球儀は太陽を中心とした地球と月の動きを表した模型。日食や月食の様子をモニターで確認できた。



「ドラネコ三匹」シリーズ

1998～2011年

プラネタリウム番組

レオ、ミケ、ルーが登場する「ドラネコ三匹」シリーズのプラネタリウム番組。1998年から始まり、科学館のラッピングバスにも登場するほど人気だった。



多摩六都科学館の沿革

5市により運営される博物館施設は全国でも唯一の存在。構想段階から数えると38年の月日が経ち、多くの人が訪れ、様々なつながりが生まれた。多摩六都科学館は、今後も人々と、地域とともに成長する存在であり続ける。

年	多摩六都科学館のできごと		年	多摩六都科学館のできごと	
1986年	10月 6市長連名で東京都へ広域的施設「都立施設」設置を求める要望書を提出 ①子供科学博物館 ②大規模スポーツ施設 ③大規模公園のいずれかを検討		2007年	10月 建物の耐震性調査のため一時休館(10月19日～11月22日)	 2012年にキャラクターヘガロク登場 ©dwarf/多摩六都科学館
1987年	1月 東京都多摩北部地域6市(小平市、東村山市、田無市、保谷市、清瀬市、東久留米市)により「多摩北部都市広域行政圏協議会」を組織・設置		2009年	3月 開館15周年記念式典・記念イベント開催 7月 来館者累計200万人を達成	
1988年	11月 多摩北部都市広域行政圏協議会により子供科学博物館の建設を構想。東京都の財政支援を受け6市による共同設置が決定	1991年 新築工事安全祈願祭	2011年	3月 東日本大震災発生に伴う臨時休館(3月15日～3月31日) 11月 プラネタリウム改修工事のため休止(2012年6月末まで) 11月～2012年3月 展示室4で「昆虫展～櫻井昆虫標本コレクション」開催	
1989年	7月 「(仮称)子供科学博物館基本構想検討委員会」発足		2012年	4月 指定管理者制度による運営を開始 7月 プラネタリウムリニューアルオープン 8月 来館者累計250万人を達成 10月 最も先進的なプラネタリウムとして「ケイロン2」世界一認定	2012年 ケイロン2ギネス認定
1990年	1月 「(仮称)子供科学博物館基本構想書」答申 6月 「多摩北部広域子供科学博物館組合」を設置 (のちに「多摩六都科学館組合」に改称)	1993年 ドーム建設中	2013年	3月 展示室リニュアルオープン(交流型展示拠点となるラゴ設置)	2013年 展示室リニュアルオープン
1991年	1月 建築・展示基本設計が完了 (仮称)子供科学博物館基本設計が完了		2014年	1月 多摩六都科学館第2次基本計画策定 3月 開館20周年記念式典開催 年間来館者20万人を達成	
1993年	8月 名称「多摩六都科学館」決定 12月 多摩六都科学館竣工	1994年 開館記念式典 都知事と6市長テープカット	2015年	3月 来館者累計300万人を達成 雑木林再生のため苗を植樹 7月 多摩六都科学館駐車場 新設	2015年 来館者累計300万人達成
1994年	3月1日 開館 4月 開館一か月間で来館者約3万人を達成 10月 来館者累計15万人を達成		2016年	3月 西武鉄道株式会社より感謝状受領	
1996年	2月 来館者累計30万人を達成	2001年 展示室リニュアル	2017年	3月 年間来館者25万人を達成 4月 指定管理者制度 第2期指定管理期間開始 「ロクトメンバーズ」開始(サイエンス友の会廃止) 9月 多摩六都科学館第2次基本計画ローリングプラン2016を策定	2017年 梶田隆章博士による講演会
2000年	10月 科学館ボランティア制度発足		2018年	隔月 開館25周年プレイベント 市民感謝ウィーク初開催	
2001年	1月 リニューアルオープン(常設展示の約半数を更新／休憩室増築／受付リニュアル) 科学館ボランティア活動開始 西東京市誕生(旧田無市と旧保谷市が合併)	2002年 来館者100万人達成	2019年	3月 開館25周年記念市民感謝デー開催 4月 来館者累計400万人を達成	2019年 開館25周年記念市民感謝デー
2002年	7月 来館者100万人達成 12月 「多摩六都科学館運営協議会」設置		2020年	2月 新型コロナウイルス感染症の流行による緊急事態宣言発出に伴う 東京都による施設使用制限要請により臨時休館(2月29日～5月31日) 5月 博物館相当施設に指定	
2003年	4月 「サイエンス友の会」発足 7月 「多摩六都科学館運営基本方針報告書」答申 12月 多摩六都科学館基本計画を策定	2003年 小柴昌俊博士 ノーベル賞受賞記念講演会	2021年	2月 プラネタリウム システム更新 4月 緊急事態宣言発出のため臨時休館(4月25日～5月31日) 「多摩六都科学館サポーター制度」開始(ロクトメンバーズ休止)	2020年 感染症防止のため 座席の間隔を空けて再開
2004年	4月 開館10周年記念イベント開催 高柳雄一館長が就任 「多摩六都科学館組合事業評価委員会」設置		2024年	1月 プラネタリウム プロジェクター更新 3月 開館30周年記念式典 開催	
2005年	11月 宇宙桜植樹式	2004年 高柳雄一館長就任			プロジェクター更新で より明るく鮮やかな映像に
2006年	1月 来館者累計150万人を達成				



2012年にキャラクターヘガロク登場 ©dwarf/多摩六都科学館



2012年 ケイロン2ギネス認定



2013年 展示室リニューアルオープン



2015年 来館者累計300万人達成



2017年 梶田隆章博士による講演会



2019年 開館25周年記念市民感謝デー



2020年 感染症防止のため座席の間隔を空けて再開



プロジェクター更新でより明るく鮮やかな映像に

施設概要

1. 多摩六都科学館

- (1) 所在地 東京都西東京市芝久保町五丁目10番64号
- (2) 面積等 敷地面積 15,704.12㎡、建築面積 3,639.22㎡、延床面積 6,868.44㎡
- (3) 構造 鉄筋コンクリート一部鉄骨造、地上3階地下2階(展示棟・プラネタリウム棟・管理棟)、
軽量鉄骨造(作業棟・駐車場管理室他)
- (4) 施設概要 ①常設展示室5室・倉庫 ②プラネタリウム ③イベントホール(多目的ホール)
④科学学習室・準備室・レクチャールーム ⑤図書コーナー ⑥カフェテリア、ミュージアムショップ
⑦休憩室(ボランティア室、授乳室等含む) ⑧管理棟(館長室、事務室、医務室、会議室等)
⑨作業棟(作業室、標本収納室、化石クリーニング室) ⑩館庭・緑地 ⑪バス停留所(車両転回路)

2. 多摩六都科学館駐車場

- (1) 所在地 東京都西東京市芝久保町五丁目 10 番地内
- (2) 面積等 敷地面積 4,823.66㎡
- (3) 収容台数 普通車 172台、大型バス 20 台
- (4) 設備 管理室、照明、排水設備、自動ゲート機・精算機



多摩六都科学館 30周年記念誌

2024年3月発行

発行者 多摩六都科学館
〒188-0014 東京都西東京市芝久保町五丁目10番64号
電話 042-469-6100

印刷所 社会福祉法人 東京コロニー
コロニー東村山印刷所